

10月15日を「八幡開町の日」としましょう！

近江八幡開町の祖「豊臣秀次」を学ぼう！

NPO 法人秀次倶楽部では八幡が開町された日、天正 13 年（1585）閏年 8 月 22 日（新暦 10 月 15 日）豊臣秀吉封地状の日付を開町記念日とし、この 10 月 15 日を「八幡開町の日」が制定されますよう市民の皆様にご賛同頂き広めていきたいと考えています。

NPO 法人秀次倶楽部は秀次公顕彰と名誉回復を活動の目的に活動をしてまいりました。感謝を込めて町づくりの精神を受け継ぐ日として 10 月 15 日を「八幡開町の日」に定め、次世代のこども達に近江八幡の歴史や文化を伝え、今回秀次公の偉業や歴史を皆様と語り合いたいと思います。

皆さんで意見交換会をしましょう！

10月14日（日）

開演：午後 2 時 30 分～（2 時開場受付）

市立資料館 2 階会議室

講演会「秀次事件の真相を糾す」

講師：井戸 洋（NPO 法人秀次倶楽部）

◆申し込みは要りません。先着順です。（約 40 名）

◆市立資料館（郷土資料館・歴史民俗資料館）の入館料 300 円が要ります。（十三箇条の掟書きが展示されています）

4 月リニューアルされた資料館を見学下さい。



マンガで歴史を学ぼう！

雨天中止

豊臣秀次の生涯を

マンガ上映で紹介

市立資料館 イベント広場

入館料はいりません。

午後 6 時 30 分～

NPO 法人秀次倶楽部



13・14 日八幡堀まつり

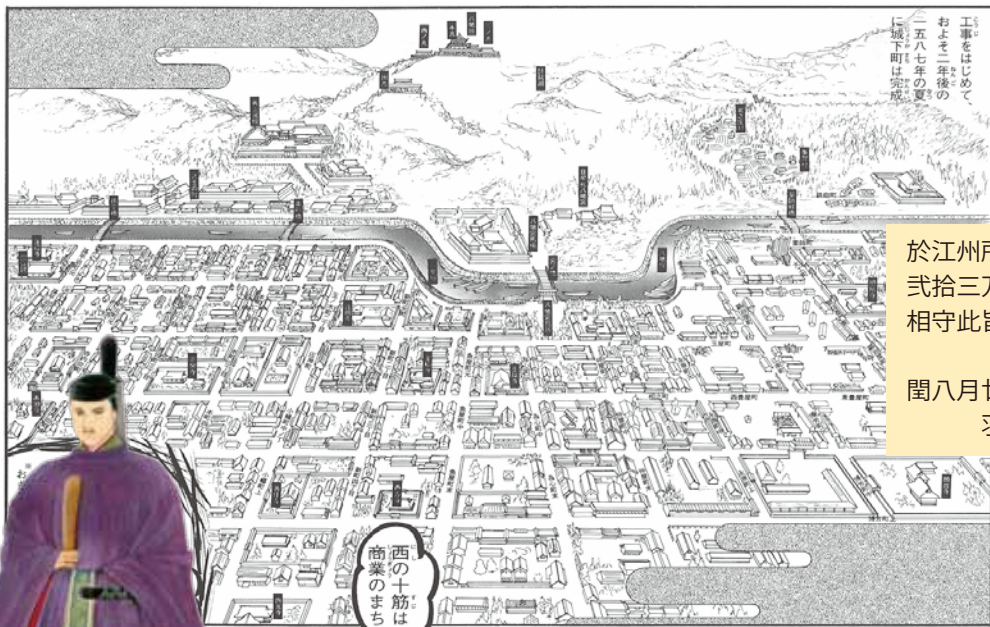
八幡堀は秀次公が築城のさいに造られ、堀割は山下町十三箇条の掟にも有るように町の発展の為に大きな役割を担い後に八幡商人の活躍に、重大な役割をはたしてきました。「八幡堀まつり」は秀次公や歴史を顕彰する事の意味も含めて、多くの市民が参加される事が望まれます。

主催：NPO 法人秀次倶楽部

後援：(株)かんでんジョイナス・(一社)近江八幡観光物産協会・(一財)ハートランド推進財団



10月15日を「八幡開町の日」としましょう!



「秀次まつり」が市民の皆様と共に開催される日を目指します!

於江州所々自分式拾万石併其方相付候宿老共当知行式拾三万石相加目録別帑在之都合四拾三万石宛行畢相守此旨国々政道以下堅可申付者也

羽柴秀吉 (花押)

閏八月廿二日

羽柴孫七郎殿

朱印状

読み下し

「江州所々において、自分二十万石併せてその方相付けそうろう宿老ども当て知行二十三万石あい加え目録別紙これあるとおり都合四十三万石あてがいおわんぬ。この旨相守り国々政道以下堅く申しつくべきものなり」

豊臣秀次公の顕彰と名誉回復を活動目的の柱としている私たちは、このほど近江八幡開町の祖である秀次公の遺徳を偲び、10月15日を「近江八幡開町の日」に選び、市民あげてお祝いする日に提案したいと考えております。長い歴史と伝統に培われ、多彩な文化と商工業を育んだこのまちを誇りに感じ、より豊かで活力あるまちづくりへ向け思いを新たにす年1回の機会とする趣旨です。

◆10月15日を選ぶ根拠

秀次公を近江八幡に封じ、田中吉政ら5人の宿老ともども43万石を与える豊臣秀吉の朱印状(※上記参照)が発せられたのは、天正13年閏8月22日です。この朱印状は、加賀前田家が所有する尊経閣文庫所蔵の文書として今に伝わります。天下一統を成し遂げる直前の秀吉が発した当時の公文書であり、明確に記述された日付を含むその内容は学術書や歴史書でも頻りに利用され、公知の事実となっています。天正13年閏8月22日は、現在私たちが使っているグレゴリオ暦(西暦)に換算すると1585年10月15日に当たります。秀次公が八幡山城主に任命された正確な日付を以って、開町記念の日とするのは極めて自然、かつ妥当であると考えています。

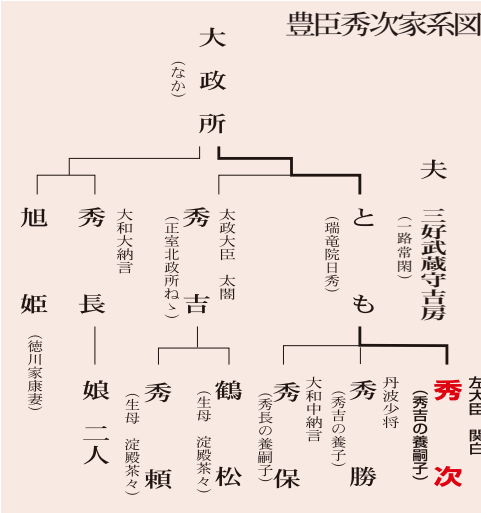
◆他に開町日にふさわしい日がないか調べてみました。

開町の日を定める場合、近江八幡にはほかにも候補になる日を想定することはできません。
 ▽秀次公が(まちのシンボル)八幡堀の開削を始めた日、または完成した日
 ▽秀次公により「八幡山下町掟十三条」が公布された日
 ▽八幡山城竣工の日
 ▽城下の街並みが完成した日
 ところが、いずれも日付のある資料はありません。ただ、掟十三条は末尾に「天正14年6月日」の記述が入っていますが、日が特定できません。

◆「建国記念の日」もグレゴリオ暦換算

旧暦の時代に起きた事績を、今の暦の期日に直す例はいくつもありますが、代表的な例が国民の祝日「建国記念の日(旧紀元節)」です。明治6年、政府が神武天皇即位の日をグレゴリオ暦に換算して2月11日(紀元前660年)と決めました。日本書紀等が記述する神武即位の日は「辛酉年春正月庚辰朔」。辛酉の年の1月1日であることがわかりますが、辛酉の年を、紀元前660年と導き出し、旧暦のその年1月1日をグレゴリオ暦で算出して2月11日としたのです。国の「建国記念の日がグレゴリオ暦に換算、制定されているのですから、近江八幡開町の日も同じように換算されて一向に差支えないはず。寧ろ「その日しかない」ということもできます。

以上のように、秀次公を開町の祖と仰ぎ、近江八幡の町が生まれた日を定める場合、10月15日が最も適した日であり、これ以外の日はありえないことをご理解いただくと存じます。実現には、住民のみならずもとより行政、観光物産協会、商工会議所などの各方面のご理解、ご協力が欠かせません。みなさま方、何卒格別のご厚情を以って、私たちの運動にご支援を賜りますようお願い申し上げます。



秀次倶楽部とは

近江八幡市は2000年前から集落が存在し、1585年豊臣秀次がこの地に城下町を開きました。水を重んじる町ができ、この町で商売を学んだ近江商人が全国へ活動領域を広げました。今も町並には面影が残り、八幡の市民の中に精神が受け継がれています。しかし、せつかくの文化や歴史が伝承されることが少なくなってきました。そこで、「秀次倶楽部」を発足して、情報を世代で分断されることがないネットワークを作り、多面的な情報発信を行い、活動を続けてきました。より活動を充実させるために法人化し、文化・歴史・コミュニティ-まちづくりに興味のある若い人たちや、企業、団体との間にネットワークを作り、人と人をつないでいくのが「NPO法人秀次倶楽部」の目的です。今まで以上に、外へ向けて滋賀や近江八幡の文化、歴史を発信していきます。歴史の中に埋もれた才「豊臣秀次」の人格、業績を顕彰していくことにより、次世代の子どもたちに歴史文化を伝承し、新しいまちづくりの方法を模索して地域社会づくりに貢献することを目標としています。

活動内容

- ◆近江八幡・豊臣秀次の歴史顕彰
- ◆近江八幡の歴史・文化・環境の伝承
- ◆市民活動の支援とネットワーキング
- ◆まちづくりに関するコンサルタントや助言
- ◆地域社会の政策力向上・コーディネイト
- ◆新たなコミュニティ・ビジネスの創造や育成
- ◆まちづくりを担う人材の発掘・育成
- ◆地域観光の推進
- ◆情報誌・書籍などの発行
- ◆東日本大震災石巻支援活動

NPO 法人秀次倶楽部

〒523-0837 近江八幡市大杉町30-1
 (有)ラビットハウス内 0748-33-2914
 理事長:高木